



上
三
十
七
海

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止





アーン、行っただよ!!

はーい♪

よく狙って……



アハハ

はい、ご覧の通りバッチリです♪



どうだい、上手くいった？



—先ずの食料はこれで確保できたね

状況が長期化するようなら
果物なりも探さないといけないけど……

……逞しいなあ、海賊

水源が綺麗なのは幸いでしたけど、
この様子ですとやはり近くに
集落などはなさそうね



2人共、流石に野営慣れしてるね

お陰でカルデアからの支援が無くても
なんとかやっていけそうだ

とはいえ、あまり
楽観はしてられないよマスター

いつぞやの無人島と違って
今回は人員も物資も限られてるし

カルデアとの通信を
阻害している原因を探る為
明日からは島の中の
探索もしなきゃならない



さあ、それでは
食事が済みましたら
今日は早く
お休みいたしましょう

明日からは色々と
動き回ることに
なるでしょうから

……あの……

それで、なんでこんな形で
寝ることに……？

いやですわマスター

日中気温の高い島でも
日差しの差し込まない
シェルター内は
酷く冷え込みますもの

夜の防寒対策は必須だろう？

幸い、持ち込み道具に
毛布くらいはあったけど

そちらは敷布につかわないと
とてもじゃありませんが

地面が固くて寝れたものじゃ
ありませんし

総じてこれはむしろ
マスターのための
行動だよ

マスターが
どう感じるかは
知らないけどね

そういうわけだから、
マスターは気にせず眠るといい

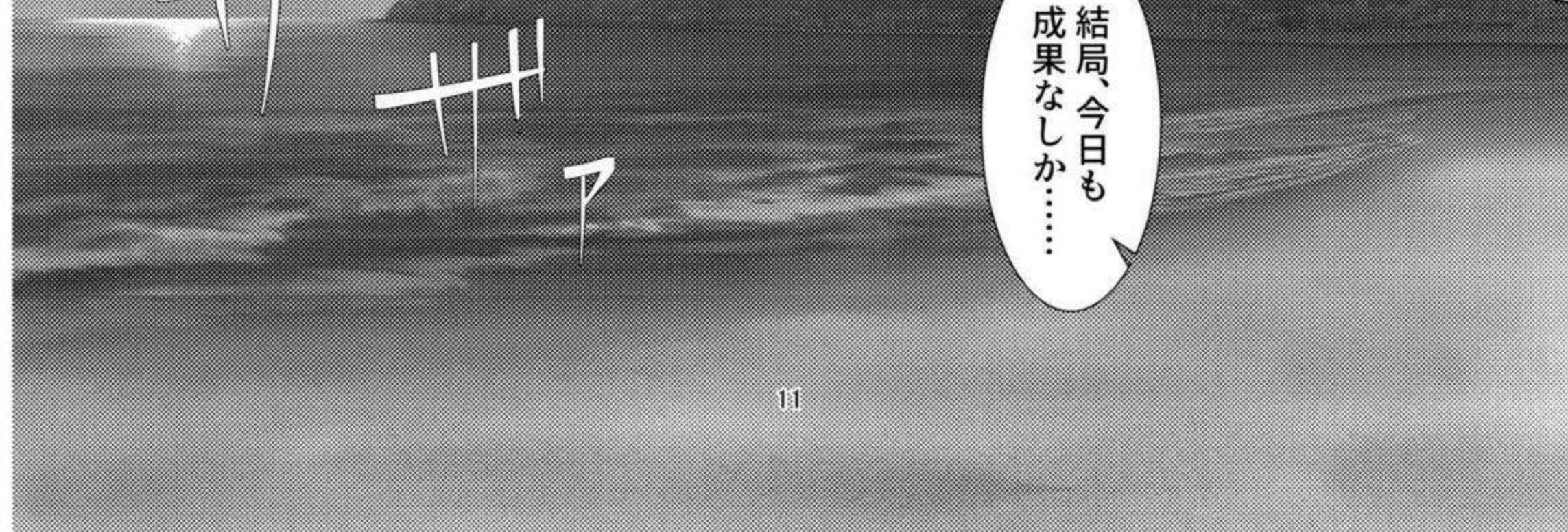
ええ、就寝中の警護も
私たちにバッチリ
おまかせください♪





— 翌日 —







まあまあ、そう焦らず
ゆっくりと時間をかけて
探索していきましよう？



お宝さがしのはずが
まさかそんな時代に
飛んでたなんて……

でも、時代が近いなら
カルデアとの通信も
案外すぐに回復できる
かもしれませんよ？



それにしても、結局
この島はいつの
どこなんだらう？

動植物はいかにも
熱帯の島と
いった風ですが

漂流物は近代のモノが
多く見えますね



案外時間軸は
もといた現代に
近いのかもしれない



キャンプの準備をする前に
今日はもう少し
薪を集めたいんだけど……

二人共、ちよっといいかな



マスターったら、
遠慮しいなんですから
ねえメアリー？

ねえじゃないよ

じゃあ一緒に
なんて言われたら
ボクが困ってたよ

うふふ、そうですね

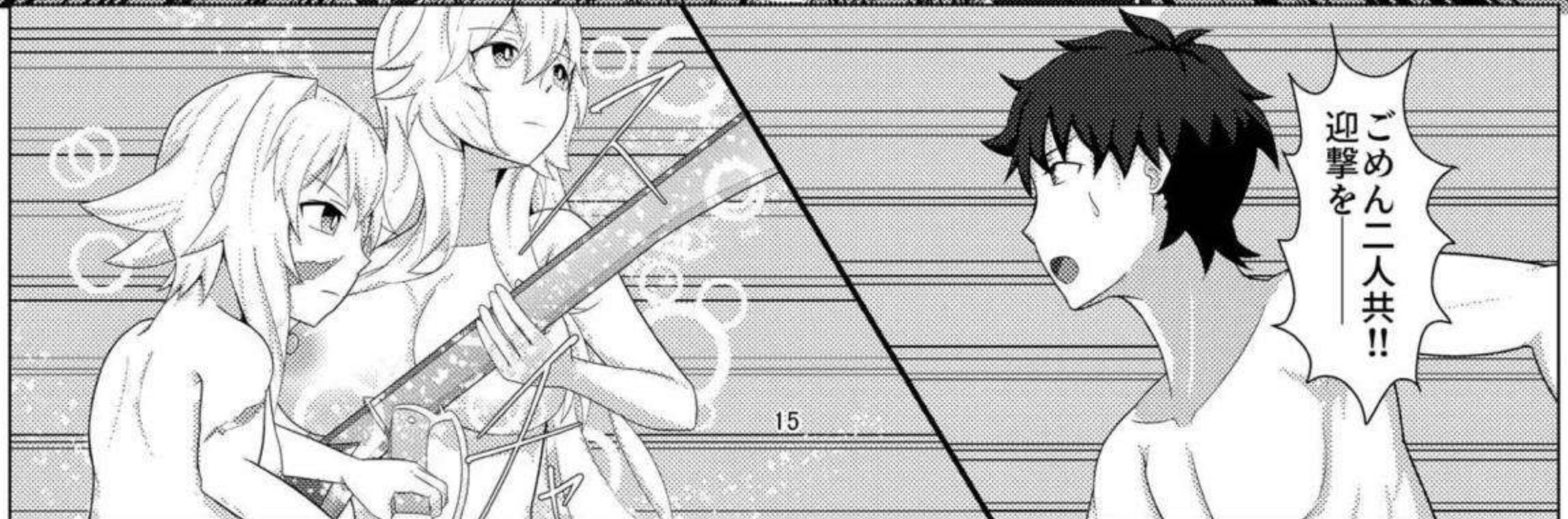
体を清める前に肌を晒しては
お風呂に入りたいと
おねだりした意味が
無くなってしまうものね？

……別に、
そういう問題じゃない

あら、私はてっきりマスターに
汗の臭いを嗅がれたくないから
お風呂に入りたがってるものかと

海賊の私たちはまだしも
現代っ子のマスターは
その辺り敏感でしょうし

……わかってるなら
わざわざ口にしないでいいのに







——ごめん……

念話を飛ばす
余裕もなかったから、
その……

申し訳ございませんでした、
マスター

……え？

やはり、外敵がいる島で
マスターと別れるべきでは
ありませんでしたかね？

……その点は、間違いなく
護衛であるボクたちのミスだ

暢気にお風呂なんて
提案したのもボクだからね

やはりここは無理にでも
一緒にいて頂く他ありません
ですので、マスター

私たち、どちらと一緒に
お風呂に入りたいですか？



これでよし、っと

目隠しを取っちゃダメだよ、マスター

う、うん……

ふう……



まったく、
こういうのはアンの方が
ノリ気だっていうのに

……なんでわざわざ
ボクの方を選ぶかな

そ、それは……



アンと一緒に、こう
物理的に
いっぱい
なっちゃん
いいそうで……

※薪拾い中

どうせボクは
何もかも小さいですよ



……別に、マスターが
アンとお風呂に入って
ボクが怒る理由がないよ



それに……
なんとなく、メアリーが
怒るかなと思って



……それよりも！
怒るっていうならさっきの
覗きの方だよ

ええ！？
いや、それは
お互いの不注意だって
さっき……

それでも覗きは
覗きだからね

ボクたちが
サーヴァントとして
注意を怠ったように

マスターも男として
責められるべき点があると
ボクは思うな！

いや、でも……



……今、頭の中で
思い出しただろう
えっち



でも見たんでしょう？

……





……ふーん

……あの、メアリー……？

ボクたちがマスターのため
せつせと働いてる間

マスターはずっと
そんなこと考えてたんだ

ふーん



ちよ、やめ、メアリー！
何を……ッ！？

どうしようか



何、してほしー？

はいはい！
私も一緒に入れて欲しいです♪

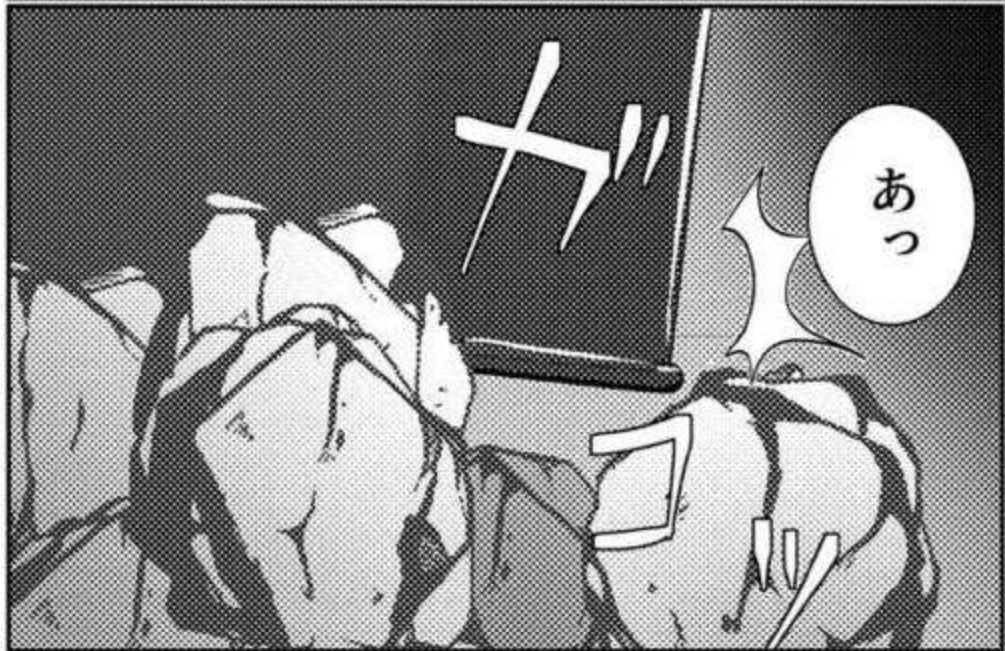
ア、アン!?
お風呂は順番だって……!!

メアリーったらズルいです
私が離れてるうちに
マスターとこんなに楽しそうにして

流石に、3人はキツすぎる！
ドラム缶もバランスが……!!?

ちょ、暴れないで……

んうッ!?





てて……大丈夫？ マス……

たあ……？

ぐわ……

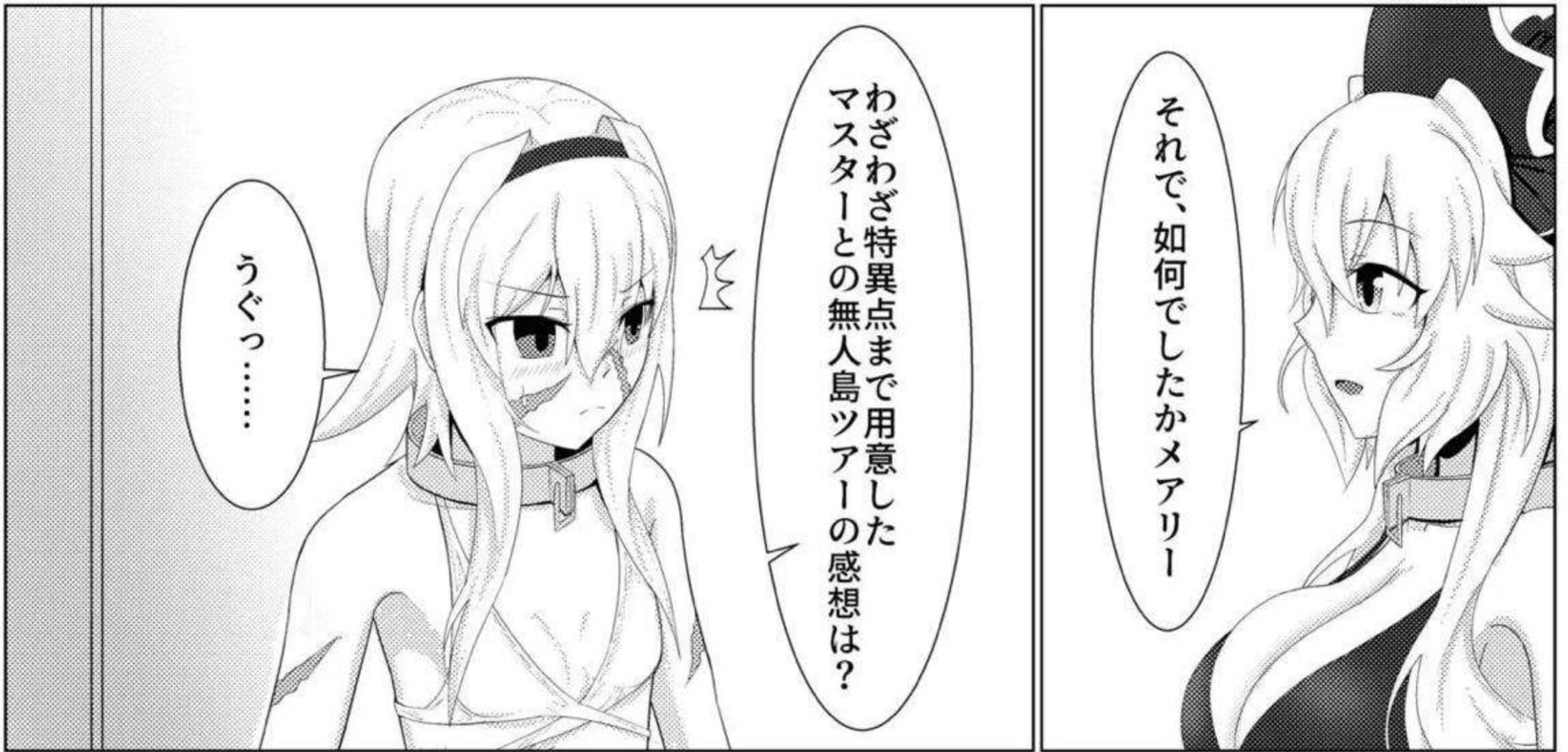
……もう、
いっそ殺してください……

あら、まあ……♪



やっと……
帰ってこれた……

結局あの通信障害は
なんだったんだ……？



それで、如何でしたかメアリー

わざわざ特異点まで用意した
マスターとの無人島ツアーの感想は？

うぐっ……



そうですよね、
普段は数多の
サーヴァントに
囲まれている
マスターを

不可抗力的に
独占するには
やはりこれくらい
のことはしませんが

まあマスターも
私達に聖杯を渡せば
どうなるかわかり
承知のほうです

このくらいは
かわいいうが儘の
範疇でしょう



さてさて、私たちは
あと何個聖杯を
頂いてましたっけ？

次はちゃんとして、
私にも相談してから
招待してくださいね、
メアリー♪



発行日：2020.5.3

発行：善騎士(善騎士領)

Twitter： <https://twitter.com/ZENraKISHI>

Pixiv： <https://www.pixiv.net/member.php?id=33330891>

※本書の18歳未満の購読、無断転載及びアップロードを禁止します。